

陽だまり

Vol.

26

2019.12



公益財団法人
丹後中央病院 広報誌

〒627-8555
京都府京丹後市峰山町杉谷158-1

TEL 0772 (62) 0791
<http://www.tangohp.com>

陽だまり vol.26

CONTENTS

ごあいさつ 理事長 藤井美枝子	2
ごあいさつ 病院長 西島 直城	3
新任医師の紹介	4
研修医感想文	6
新入職員の紹介 職員オリエンテーション研修	8
腎臓病教室	12
糖尿病教室	14
「くすぐる診療所」出版	16

◆今号の表紙◆



安国寺のドウダンツツジ

安国寺（豊岡市但東町相田）
本堂越しに座敷の向こうに見えるドウダンツツジ
がまるで額縁に入った絵画の様に見えます。



ごあいさつ

公益財団法人丹後中央病院
理事長 藤井美枝子

この度、平成30年12月18日の理事会におきまして西島理事長の後任として公益財団法人丹後中央病院理事長に就任しました。

一昨年の9月、肩の骨折をした折に、西島院長先生はじめ、先生、職員のみなさんが患者様に対して笑顔で優しく対応しているところにとっても好感を持っておりました。

このたびこのようなご縁を頂き、理事長という重責をお引き受けさせて頂きましたが、医療の世界には全く門外漢でございますので、皆様にはご指導とご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

また、当院は「自分たちの健康は自分たちで購^{あがな}う」という地元住民の理念のもと、西島院長を中心に、私の女性の視点で丹後中央病院の先生はじめ職員のみなさんが働きやすい環境を作ることで、地域の皆様から安心・信頼をされ、より一層愛される丹後中央病院になりますよう微力ながら努めて参りたいと思います。皆様には引き続き公益財団法人丹後中央病院にあたたかいご支援を賜りますよう心からお願いを申し上げます。



人生の晩秋

病院長 西島 直城



当院は近く創立80周年を迎えます。その頃を振り返りました。

丹後ちりめんの華やかなりし頃、一方では女工哀史に描かれたような、労働環境が存在しました。地元住民の悲願は医療設備の充実でした。当院設立のため昭和14年から財団が発足し、戦争のさなかの昭和17年に、木造3階建てですが、当地で初めての総合病院が竣工しました。

京都大学の第1外科・第2外科・第2内科から10人近い医師の派遣があり、野田川や間人、久美浜に診療所を有し、地域住民の健康を守ってきました。それだけに、自分たちの健康は自分たちで守るというスピリットが今でも生かされております。家族で大黒柱を失った家庭は、周辺で助けあうという同等一栄の慣習が今でも残っております。伊根ではご主人が亡くなった家庭には、地引網の魚や生活費はどこに頼るともなく、周辺から提供されたようです。当院には伊根からの患者さんも多く、皆さんのご意見として、周辺の町や市と合併しなくてよかったというご返事です。

先日、歌手の氷川きよしが、世の中で最も大切なものは二つあるでしょう？一つはふるさとであり、いま一つは母親である。と言い出すと、会場で満場の拍手が送られました。

晩秋の夕暮れともなれば、もの哀しく、来し方を振り返ります。徳川14代将軍 家茂に嫁いだ和宮様は、家茂の後を追うようにして亡くなります。13代将軍の御台所・篤姫が、この夭折を嘆いて

君が齡(よわい) とどめかねたる 早川の 水の流れも うらめしきかな、

(箱根早川に歌碑)

年齢を重ねるや1年があつという間に過ぎ行き、世の儚さ、人の心の移ろい易さを感じている今日此の頃です。

温故知新；今までの歩んできた道をよく振り返り、そこから先に進むこと、住民を大切に、ふるさとを大切に、……そのような丹後中央病院であってほしいと願っています。

はじめまして

新任医師の紹介

外科

ようともあき
楊 知明 医師

■専門医・認定医等

日本外科学会 外科専門医
日本消化器外科学会
消化器外科専門医
消化器がん外科治療認定医
日本消化器病学会 消化器病専門医
日本肝臓学会 肝臓専門医
ALTA注 (ジオン®注)
四段階注射法講習会受講済
京都大学医学博士
京都大学客員研究員
Université Paris Diderot-Paris 7
(パリ第7大学) hôpital Beaujon 留学

外来診療

午前診療
木曜日・
第2土曜日



平成31年4月1日より田中宏和先生の後任として、着任いたしました外科の楊知明です。前任地の京都大学肝胆膵・移植外科に在籍していた際にはこちらへ非常勤医師として勤務させていただいたこともあり、この度の赴任を大変嬉しくしております。

私は平成20年三重大学医学部卒業後、消化器外科医として研鑽を積んで参りました。その間にも内視鏡治療や血管外科の治療も多数経験させていただき、今時は珍しい(?) オールマイティな外科医と自負しております。一般外科の修練の後ですが、京都大学肝胆膵・移植外科で肝臓外科に関する臨床・研究を、続くフランス、パリ第7ドゥニ・ディドロ大学附属ボジョン病院肝胆膵・移植外科での留学経験を経て、この度の赴任となっております。

さて、丹後中央病院外科では、すでに腹腔鏡下手術が多数行われており、地域格差の是正が得られております。私も腹腔鏡下手術を多数経験しておりますので、木曜日の外来では是非ご相談ください。その他、私に与えられた使命は丹後中央病院のさらなる救急医療の充実でございます。外科医としての強みは、救急医療に生かされると考えております。地域の皆様の不安に対処すべく努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、私の好きな言葉は、阪急阪神東宝グループ創業者・小林一三による「下足番を命じられたら、日本一の下足番になってみる。そうしたら、誰も君を下足番にしておかぬ。」です。スタッフ医師の中では、私が最も若年になりますが、日々の努力は皆様の信頼に繋がると信じております。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

循環器内科

かわしま つねあき
革嶋恒明 医師

■専門医・認定医等

日本循環器学会 循環器専門医
日本内科学会 総合内科専門医
人間ドック健診専門医
京都大学医学博士



この度、循環器内科主任部長に着任いたしました革嶋恒明と申します。

患者様が安心して医療を受けられる体制づくりを目指していきたいと考えております。

信頼される医療を目指し、スタッフ一同、精進してまいります。今後とも、よろしく申し上げます。

外来診療

午前診療 月・火曜日
夜間診療 第2・4 水曜日

整形外科

ゆりえ ひろふみ
淘江宏文 医師

■専門医・認定医等

日本整形外科学会 専門医
日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医
日本救急医学会認定ICLSコース終了
日台湾手関節鏡カダバーコース終了
京都大学医学博士

■所属学会

日本整形外科学会
日本手外科学会
日本再生医療学会
中部日本整形外科災害外科学会
日本マイクロサージャリー学会
日本リハビリテーション医学会

外来診療

午前診療

月・火 (初診のみ)・水・金曜日

夜間診療

月・水・金曜日 (初診のみ)



京丹後市のみなさま、初めまして。平成31年4月1日より、丹後中央病院整形外科部長として着任いたしました。淘江宏文と申します。

京丹後市ではめったに聞くことのない姓かと思います。四国香川県(うどん県)にて出生し、お昼ご飯はほぼ毎日うどんを食べて成長してきました。平成19年に日本のカリフォルニアとも言われております和歌山県立医科大学を卒業後、香川大学医学部附属病院にて臨床研修医として主に救急医療中心に幅広く学び、その後、京都大学医学部附属病院、大津赤十字病院、八幡中央病院では整形外科医として外傷学、脊椎外科、人工関節を中心に研修を行い、昨年までは京都大学大学院にて手の外科グループに所属し末梢神経再生の研究に没頭してまいりました。これまで人生の大半を温暖な地方でぬくぬくと過ごしており、雪国での生活は初めてであり、不安と雪対策、転倒対策に頭を悩ませる一方で京丹後地方での生活を楽しみにしている毎日です。

丹後中央病院につきましては、平成31年2月より業務引継ぎのため勤務させていただきましたが、西島直城院長の真摯に患者さんと向き合う姿勢や、前任の野口主任部長の休むことなく外来、病棟、手術に奔走する姿を見ておりますと、責任の重さを痛感し身の引き締まる思いです。現在の丹後中央病院整形外科の診療体制ですが、スタッフが少なく、外来でお待ちいただくこともあるかと思いますが、当院は非常に充実した医療設備が整っており、皆さまに最適な医療を提供できると感じております。

臨床から離れていた期間も長く、皆さまにご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、早く臨床現場の勤を取り戻し、これまで学んできた知識、技術を生かし、京丹後市の皆さまに安心、信頼される医療が提供できるよう日々精進していきます。また美味しい讃岐うどんのお店も、診療に余裕がある時には聞いていただければと思います。よろしくお願い申し上げます。

循環器内科

はらだ まさき
原田優樹 医師

■専門医・認定医等

日本循環器学会 循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会
認定医
日本内科学会 総合内科専門医
日本内科学会 認定内科医
日本プライマリ・ケア連合学会認定医

この度ご縁をいただき4月から循環器内科に参りました原田優樹と申します。平成17年に近畿大学医学部を卒業し、救急・総合内科の研修を経て心臓・血管カテーテル検査・治療を中心とした循環器内科を専攻しました。妻と2人の娘がおります。丹後での勤務は初めてですが、長女が生まれて初めて海に入ったのは琴引浜でした。

この地域の皆様の信頼に足る医療を提供すべくスタッフ一同精進してまいりますので今後とも宜しくお願い申し上げます。

外来診療

午前診療 月曜日
夜間診療 第1・3・5 水曜日



研修医感想



丹後中央病院での研修を終えて

京都大学医学部附属病院 初期臨床研修2年 阿部 咲良

5月7日から31日までの1ヶ月間を丹後中央病院の整形外科で研修させていただきました。毎日の業務として午前中は先生方の外来見学、午後は手術介助や病棟回診、処置をさせていただきました。

丹後中央病院は周りに同程度の規模の病院が少ないことから、ばね指や脊柱管狭窄症などのcommon diseaseから、開放骨折や切断肢、切断指のような重症なものまで様々な症例が集まります。地域の特性柄、高齢者が多く大腿骨頸部骨折や橈骨遠位端骨折も多く見られました。また、院長である整形外科の西島先生が専門としていることもあり、関節リウマチや、手の疾患をお持ちの患者さんが多く受診されている印象を受けました。外来見学では、そのような様々な患者さん、様々な訴えに対してどのような身体所見を取るのか、どのような問診を取るのかを細かく学ぶことができました。御多忙の中、外来の合間に疾患や解剖についても丁寧に教えていただき、誠に感謝しております。また、整形外科を志望している私に、身体所見だけでなく関節内注射やギプス固定など専攻医になれば必要となってくる手技や処置を何例も任せていただいたり、整形外科に特に多い交通事故の診断書、介護保険の診断書などの書類についてご教授いただいたりと大変勉強になりました。常勤医の西島先生、洵江先生の外来だけでなく、非常勤でいらしている野口先生の外来も見学させていただきましたが、どの先生の外来も患者さん、スタッフを含め非常に和やかでした。特に西島先生の外来は竹村看護師や患者さんとのかけ合いが面白く、毎日笑い声に包まれていました。中には遠方から西島先生を頼って通院されている患者さんもうらっしゃり、西島先生の医師としての素晴らしさを感じました。先生方の外来では、一つ一つ解剖や検査結果の見方を患者さんに説明し、治療に関しても患者さんの希望優先で話を進められていて、非常に患者さんの気持ちに配慮した外来だと感じました。1ヶ月間という短い期間しか見学しておりませんが、先生方の

外来の姿勢は非常に理想的であり、来年以降に私が外来診療を担う際には先生方の外来を思い出しながら患者さんに接したいと感じました。

丹後中央病院は手術も豊富でした。腱断裂に対する腱移行術や骨折に対する創外固定など、あまり見られない手術も見学することができ、貴重な経験となりました。初めは手術介助のみを行っていましたが、大腿骨頸部骨折に対する髓内釘や橈骨遠位端骨折のプレート固定術、ばね指の腱鞘切開術など、手術の一部を任せただけが増えていき、整形外科医への意欲が高まりました。手術と一緒にいらさせていただくことが多かった洵江先生は、手術前に何を勉強するべきかを提示してくださり、手術見学が大変有意義な時間となりました。また、来年から必要になってくるだろうとのことで、手術症例に関して手術適応を決定する目安や画像所見もご指導いただきました。手術中も、血管や神経、腱の走行などの解剖の説明や、閉創時の糸のかけ方、プレートの当て方やスクリューの打ち方など、時には整形外科領域の細かい知識まで大変ご多忙の中で多くを学ばせていただきました。杉本先生、野口先生を始め、非常勤でいらしている先生方とも手術をご一緒させていただきましたが、不慣れな私に優しく接していただき感謝しております。

また、毎朝30分程度、呼吸器内科の佐竹先生より胸部単純撮影の読影についての勉強会を設けていただきました。理論に基づいて非常に丁寧に御指導いただき、今まで何となく読影していた部分が明らかとなりました。最初は正常な画像で解剖構造を教えていただき、異常所見を見つける目安もご指導いただきました。次に、この異常があれば、こういう風に画像に出てくるといった、具体的な読影を学び、最終的には実際に前日に来院された症例の画像所見を私が答え、間違っているところや足りない部分をご指導いただきました。今まであまり意識していなかった部分まで教えていただき、苦手としていた胸部単純撮影の読影に少し自信がつけました。

佐竹先生のおっしゃる通り、理論を理解できれば後は経験の問題であるので今後は積極的に読影し、先生の教えを身に付けていきたいと思えます。

丹後中央病院では医療スタッフの方々に支えられ、大変充実した研修を行うことができました。手術室、病棟、外来あらゆるところでスタッフの方々に世話になり、大変感謝しております。医局では秘書課の方々や他の診療科の先生方が気さくに声をかけてくださり、1ヶ月間毎日病院へ通勤するのが楽しかったです。丹後中央病院は医師が少ない中で大変多くの症例が集まる病院であり、どのようにして診療が回っているのかが最初は疑問に感じていましたが、看護師やクラークの方々の働

きで先生方を上手くサポートしている姿を見て納得しました。先生方もスタッフの方々に非常に感謝している様子であり、チーム医療が充実している地域医療の素晴らしさを実感することができました。

先生方やスタッフの方々と夕食をご一緒させていただいたのも大変良い思い出となりました。丹後中央病院はどこにいても笑顔に包まれており、とても居心地の良い病院であったので、研修を終えるのを寂しく感じましたが、整形外科医として成長した後、お世話になったスタッフの方々や先生方に再びお会いできるよう日々研鑽していきたいと思えます。



丹後中央病院での地域研修を終えて

京都大学医学部附属病院 臨床研修センター 嶋村 友美

私は京都大学医学部附属病院で初期研修医2年目として勤務しています。今回は丹後中央病院で6月の4週間と短期ではありますが臨床研修をさせていただきました。私は整形外科を志望しており、4・5月も大学で整形外科をローテートしていたこともあり、引き続き、地域研修でも整形外科を選択しました。

おおまかな1日の流れは、午前中は外来見学、午後は手術介助にはいる、という感じでした。

外来見学ではおもに院長先生の外来につかせていただきました。関節穿刺や関節注射、創部処置などの手技を始め、身体所見のみかたや解剖学的な説明など幅広く指導していただきました。患者さんは主に丹後地域出身の高齢者が多く、整形外科的疾患以外の疾患もかかっているかたが多い印象でした。患者さんの普段の生活を知りつつ、患者さん各々にとって最善の医療を提供することを心がけておられる姿をみて、将来自分が外来患者を受け持つようになった際には、先生の姿勢を思い出して外来に臨もうと思えました。また、中にはわざわざ丹後より遠方から先生の診察を希望されてこられているかたもいて、院長先生に対する患者さんからの人望の厚さに感銘を受けました。

手術に関してです。手術症例は基本的に毎日あります。私は^{ゆりえ}海江先生の執刀される手術にはいっていることが多かったのですが、非常勤で来られている先生の手術にもはいらせていただく機会もありました。症例は豊富で、

外傷や手の症例・人工関節・脊椎疾患など様々でした。大学の研修では外傷はあまり経験していなかったので、転倒による骨折の手術は、手術にはいること自体初めてで、とても勉強になりました。手術中にスクリューの入れ方や人工関節の脱臼・整復の仕方、あるいは手指の細かな解剖など、基本的な手技を始め、前の空き時間には、どのような手術を行うのかなどの指導を、教科書を用いてしてくださいました。将来整形外科医として、サブスペシャリティーをどこに決めても経験するであろうcommonな症例がとても多く、1つ1つの手術がどれも貴重な経験となりました。

そして、“整形外科は胸部レントゲンをしっかり読影できるようにならなければいけない”という院長先生の一声で、平日の朝30分間、呼吸器内科の佐竹先生による胸部レントゲン読影レクチャーを毎日していただきました。整形外科では内科疾患の中でも特にリウマチの患者さんを診る機会があり、生物学的製剤による肺疾患などの合併症があります。そういった疾患を“理屈に基づいて”しっかり読影できるようにと、特訓してくださいました。呼吸器は苦手領域であり、しかも研修医のうちにローテートする機会がなく避けてきた分野でした。レクチャーを受けていくうちに佐竹先生のおっしゃる“理屈に基づいた”読影という意味が少しずつ理解できるようになりました。1ヶ月という短い期間でしたが、今までなんとなく見ていた胸部レントゲン写真も、“理屈に基

づいて”を意識しながら見るができるようになります。外科を選択した地域研修でしたが、内科的な面での自分の成長も実感することができ、朝のレクチャーがメリハリのある、とても有意義なものになりました。

この1ヶ月間の丹後中央病院での地域研修を終えて、大学病院とはまた少し違った雰囲気の中で研修をすることの楽しさや新鮮さを感じ、また、地元根付いた医

療を実感することができました。患者さんと日々とても近い距離で過ごし、主治医と同様の緊張感・責任感を持って診察にあたることができました。

最後になりますが、1ヶ月間、丹後中央病院でお世話になりました西島先生・洵江先生はじめ非常勤の先生方、医療スタッフの方々や秘書課の方々に感謝申し上げます。



丹後中央病院での研修を終えて

京都大学医学部附属病院 2年次研修医 阪口 沙織

2019年10月の1ヶ月間、丹後中央病院で地域研修をさせていただきました。

京都での生活を長く経験しながらも、丹後は天橋立や伊根に少し来訪したことがある程度であり、この馴染みの薄い地域に飛び込む良い機会と考え研修地を希望しました。診療科については、今までの臨床研修でローテートしていなかった点、手術を多く見学できる点から整形外科を選択しました。私は来年から眼科に進むことを決めており、あえて今しかできない経験を求めて身を置いた環境はとても刺激的なものでした。

研修の毎日は、佐竹副院長による朝の胸部X線の読影レクチャーから始まりました。画像の中でも胸部X線は圧倒的に触れる回数が多いなか、今までは何となく読影して明らかな異常を見つける程度でした。基本の原理に始まり、系統立った読影法、病態生理に至るまでしっかり叩き直していただき、とても有意義な時間となりました。

朝から読影で目を覚ました後は、基本的に午前は外来、午後は手術介助に入る流れでした。外来では高齢の方が多く背景も相まって並存疾患を抱えている例が大多数で、内科的なコントロールに関しても留意しているのが印象的でした。中でも関節リウマチの多さに驚き、長期的な治療の中で胸部X線などの検査にも目を配る必要性を感じました。自分自身が今後専門分野に進んだ時に、他科についても幅広く理解を深めなければならぬと身が引き締まりました。

特に見学の機会が多かった院長外来では、患者さんと近況について砕けた会話を交わしながら診療されており、師長さんやクラークさんとの掛け合いを聞くのも楽しんでいました。院長の人柄ゆえ、一見治療とは関係なさそうな会話の中から家族背景や生活習慣を上手く

把握して治療方針に生かし、信頼関係を築かれているように思いました。

整形外科の手術件数は想像以上に多く、内容も外傷から脊椎の慢性疾患まで多岐に亘りました。今まで手術は清潔で入っても、上の先生が多い場合は特に見学している時間が長く、基本的には指示をもらって動く姿勢で臨んでいました。しかしこちらでは第一助手として入ることもあり、主体的に動いて次に何をすべきかを常に考える訓練になりました。手術室の看護師さん達との連携も俊敏で、入れ替えなど素早いことにいつも感心していました。手術中は西島院長、洵江先生ともに指導熱心で、研修医の私にもどんどん手技を経験させて下さいました。皮下の縫合を練習する機会も沢山与えていただいたお陰で、以前より手が慣れたように思います。整形外科の手術はハードな力仕事の面もありますが、自分の手で治している実感が強く、整復の結果や術後QOLの改善が目に見えて分かる点が魅力的でした。

また、初めに眼科志望と伝えたところ、週1回の手術日は眼科にも顔を出せるなど柔軟に対応いただきました。他の診療科の先生方とも医局で顔を合わせる機会が多いことから、仕事終わりにご飯に連れて行っていただくこともあり、様々なキャリアを歩まれている先生方の貴重なお話を伺うことができました。

丹後中央病院での研修を通して診療のみならず豊かな経験を得られ、非常に有意義なものとなりました。どの職種の方も親切で風通しが良く、居心地良く過ごすことができ、1ヶ月と短い期間ではありましたが丹後が思い出深い土地になりました。西島院長、洵江先生、秘書課の方々を始め、お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

新入職員 の紹介

病棟看護師



私はこの生まれ育った地域に貢献したいと思い、小学生以来の夢である看護師資格を取得し地元に戻ってきました。趣味はサッカー観戦で特技はご飯を美味しく食べることです。大阪に住んでいたこともあり、面白い話や楽しいことが大好きなので気軽に声をかけてください。

看護師 1病棟 松村ひかる



一日でも早く仕事を覚え、患者さまが安心して過ごしていただけるよう知識・技術の向上に励みたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

看護師 2病棟 中村亜美



今年度より、看護部でお世話になっております 看護師の西村智絵です。まだまだ、勉強不足なところもありますが、フレッシュマンとして一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

看護師 3病棟 西村智絵



4月からお世話になります、看護師の千坂清華です。患者様に寄り添い、その人らしさを捉え、まわりの環境まで整えられる看護を目指しています。日々、コツコツと知識・技術を磨き、人としても成長していきたいと考えています。精一杯、頑張りますので、ご指導よろしくお願ひします。

看護師 5病棟 千坂清華



4月から、看護部でお世話になっている故金絵梨です。患者様が安心して過ごせるよう、確かな知識と技術を身に着け、一人ひとりの心に寄り添える看護師になりたいです。そのために、日々学び続ける姿勢を大切にがんばります。よろしくお願ひします。

看護師 7病棟 故金絵梨



7病棟に配属となりました、看護師の小森ひとみです。まだわからないこともたくさんありますが、早く仕事を覚えて、少しでも患者様の力になれるように、頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

看護師 7病棟 小森ひとみ



7月から7病棟で勤務しております早田麻希です。一昨年、夫の転職を期に京丹後市へ移住し、昨年は第三子を出産しました。看護師の仕事にやりがい、面白さを感じていましたので、ライフステージが変わる中でも、仕事と家庭を両立できる環境で再チャレンジしたいと思っていました。移住前は脳神経外科/心臓血管外科を中心とした病棟勤務でしたので、7病棟での内科疾患の幅広さに驚きつつも、毎日学べる環境に新鮮さを感じています。そして何より病棟スタッフの皆さまに助けていただいていることに感謝しています。仕事だけでなく、丹後での生活や子育てについてなどにアドバイスを頂いたり、共感して下さったり、本当にあたたかい職場だなと実感しています。エネルギーと丁寧をモットーに精進してまいりますのでよろしくお願ひします。

看護師 7病棟 早田麻希

透析室



看護師 石崎隆政

広島県出身です。准看護学校を卒業し、3年間整形の病院で勤務しながら夜間の看護学校に通っていました。趣味は筋力トレーニングと料理を食べる・作ることです。丹後の美味しいごはん屋さんを開拓中なので、おすすめがありましたらぜひ教えてください。



臨床工学技士 永易賢人

6月より臨床工学部でお世話になっております、永易賢人と申します。前職の病院での知識や技術を活かしつつ、当院では技士間のみならず、他職種と連携し更にスキルアップを図りたく思います。今までの技術とこれからの技術向上でチーム医療にて当院に貢献したく考えております。よろしくお願い致します。

リハビリテーション部



理学療法士 坂根利明

リハビリテーションを通して患者様に信頼される理学療法士となるために努力していきたいと思っております。慣れないうちにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



理学療法士 小巻恵美

この度丹後中央病院に採用していただきありがとうございます。一社会人、一理学療法士としての自覚を持ち、先輩方や他職種の方から多くのことを学び、患者様から信頼していただけるよう努めてまいります。



理学療法士 白岩義貴

先輩や他職種の皆様から様々な事を学び、一日でも早く地域の方々に良質な医療を提供できるように日々精進してまいります。



理学療法士 小北佳威

今年度からリハビリテーション部でお世話になっております。地元である峰山町の丹後中央病院で、地域貢献ができることに喜びを感じております。知識、技術面等の多くのことが未熟ですが、日々勉強をし、良質なリハビリテーションを提供できるよう頑張ります。

臨床検査部



臨床検査部 小嶋由貴子

出身の茨城県から沖縄、京都市と渡り海の幸豊かな京丹後へと辿り着きました。前職は検査センター勤務ということもあり、患者様や様々な職種の方々と接する、病院という場に多少の緊張や不安はありますが、皆様に信頼されるような検査技師となれるよう精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



理学療法士 袖長拓馬

本年度より理学療法士としてお世話になります。リハビリテーションを通して患者様に信頼されるセラピストを目指し知識・技術の向上に励みたいと思っております。精一杯頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



臨床検査部 坪倉一晶

4月から検査部でお世話になっている坪倉と申します。出身は網野町島津で、大阪の大学に通い地元に戻ってきました。趣味はゲームなどでインドア派ですが、新しい趣味も模索中です。今はまだ検査部の仕事を覚えるだけで精一杯ですが、患者さんだけでなく他職種の方々にも頼られる存在になりたいと思っております。職員の皆さんと積極的に交流し、自分の仕事と他職種の仕事とが、どのように繋がって医療という形になるのか勉強していきたいです。よろしくお願い致します。



手術室



看護師 中西琴音

今年度から看護部でお世話になっております中西琴音です。笑顔を忘れず、患者様が安心して医療を受けることができるよう、日々勉強し多くの技術と知識を身に着けたいと思います。よろしくお願いいたします。



クラーク 佐々木悠菜

1日でも早く仕事に慣れ、患者さんのお役に立てるよう、またスムーズな診療が行えるように努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務



医事部 大江紗月

4月より医事部外来担当課でお世話になっております大江紗月と申します。ずっと丹後中央病院で働くのが夢でした。実際に今、自分が丹後で一番大きなこの病院で勤務しているのが夢のようです。1日でも早く業務に慣れ、なんでもできる病院の顔になれるよう日々努力していきます。よろしくお願いいたします。



医事部 前田美智

4月より医事部外来担当課でお世話になっております前田美智と申します。社会人1年目のスタートが丹後中央病院で迎えられたことを大変嬉しく思っております。まだ仕事に慣れない中、迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、精一杯努めてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

院内保育所



院内保育所 増田朱莉

今年度6月よりたぶの木保育所で働かせて頂いている増田朱莉です。丹後の自然の気持ちよさや、面白さを子どもたちと共有し、元気いっぱい遊びたいです。また病院で働くお父さん、お母さんが安心してお仕事できるよう、お子さんの毎日の姿を丁寧にお伝えできればと思っております。まだまだ未熟な保育士ですが、よろしくお願いいたします。



院内保育所 堀 順子

4月より、たぶの木保育所で保育補助をさせていただいている堀順子です。毎日かわいい子どもたちに囲まれて幸せな日々を送らせていただいています。大切な子どもたちを守り、保護者の方に安心していただけるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



院内保育所 安達育子

4月より、院内たぶの木保育所でパート保育士としてお世話になっております。長いブランクがありますが、子どもたちの笑顔とパワーをもらって、歳に負けず、元気いっぱい頑張ろうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



新規採用職員オリエンテーション研修

今年度も新規採用職員オリエンテーション研修を4月1日～4月8日に行いました。

研修では先輩職員より、病院の理念・歴史をはじめ、基本的な知識や技術について講義を受けました。参加者は熱心に担当者の話に耳を傾け、緊張しながら実技研修も受けました。新入職員の皆さんの成長を、全職員で見守り支えていきます。

腎臓病教室

腎臓病療養指導室の活動として、患者さんに腎臓と腎臓の健康を保つための療養法について知っていただくために「腎臓病教室」を開催しています。

腎臓病療養指導室開室から1年が経って

腎臓病療養指導室 管理栄養士 田中 奈美恵

腎臓は人の寿命を決める大切な臓器です。「慢性腎臓病(CKD)」とは、「腎臓の働きが徐々に低下していくさまざまな腎臓病の総称」で、放っておくと透析治療が必要になったり、心筋梗塞や脳卒中を引き起こす危険な病気です。今や成人の8人に1人がCKDであり、CKDは国民の健康を脅かす国民病と考えられるようになってきました。

慢性腎臓病の重症度(ステージ)は腎臓の機能に応じて、右の表のように慢性腎臓病の原因疾患、GFRおよび尿蛋白もしくは尿アルブミン量の値によって、病気の進み具合を表すステージ分類が行われ、それぞれのステージに応じた治療が実施されます。

平成30年4月より、慢性腎臓病(CKD)対策を目的とした腎臓病療養指導室を開室いたしました。

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	30未満	30~299	300以上
高血圧 腎炎 全身性赤痢腎 移植腎 不明 その他	尿蛋白定量 (g/日)	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分/1.73m ²)	G1 正常または高値	≥90		
	G2 正常または軽度低下	60~89		
	G3a 軽度~中等度低下	45~59		
	G3b 中等度~高度低下	30~44		
	G4 高度低下	15~29		
	G5 末期腎不全 (ESKD)	<15		

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑色のステージを基準に、黄、オレンジ、赤色の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。
(KDIGO CKD guideline 2012を日本用に改良)
CKDガイド2012より

腎臓病療養指導士

「腎臓病療養指導士」とは、それぞれの医療環境において質の高いCKD療養指導を提供する人材を育てるため、2017年度から日本腎臓協会が認定制度を設けている資格です。

京都府北部は腎臓病患者さんの数に比べ腎臓専門医の数が圧倒的に少なく、同じ京都の中でも丹後と京都市内とでの腎領域の医療格差は大きいと感じています。

腎臓を専門に診られる先生が少ないこの丹後で、腎臓病を患い不安に思っておられる患者さんは多く、管理栄養士として何ができるのかを考え、まずは腎臓病の勉強のため腎臓病療養指導士の資格取得を目指そうと思いました。

正直苦手だった腎領域の勉強でしたが、腎臓病教室を受講して下さった患者様と一緒に腎臓病についての勉強をさせていただき、今年4月腎臓病療養指導士の認定を受ける事ができました。

腎臓病療養指導士として、患者様の不安に寄り添い、支援できるよう今後も勉強し続けたいと思っております。



令和元年度 腎臓病教室予定

内容は
変更になる場合
があります

日 程	テ ー マ
第1回 済 平成31年 4月 4日(木)	透析室見学(13:30~13:50) / 腎代替療法について
第2回 済 令和元年 6月 6日(木)	腎臓病の薬 / 治療用特殊食品の選び方
第3回 済 令和元年 8月 1日(木)	腎臓病の運動療法 / サルコペニア・フレイルと腎臓病
第4回 済 令和元年 10月 3日(木)	腎臓病の検査値の見方 / 腎臓病に関わる疾患の予防と管理
第5回 済 令和元年 12月 5日(木)	感染予防について / 年末年始の過ごし方
第6回 令和2年 2月 7日(木)	腎臓病食の献立の作り方

日時 隔月第1木曜日 14:00 ~ 15:00

場所 ふたばホール

費用 保険一部負担金をお支払いいただきます。(3割負担:240円、1割負担:80円)

対象

- ① eGFR 60 mL/分/1.73 m²未満が3ヶ月以上続いている方。
- ② eGFR 60 mL/分/1.73 m²以上であるが、+ー以上のタンパク尿(尿蛋白/Cr比)が3ヶ月以上続いている方。
- ③ ①または②の方で当院を受診されている方とその家族。



ご自宅のおかずの塩分測定ができます



腎臓病食の試食ができます



教室の様子



腎臓病特殊食品のお土産付

昨年の腎臓病教室の様子

昨年は全6回で101名の方にご参加いただきました。4回以上継続で受講された方で、腎機能(eGFR)が改善された方は2名、悪化された方は1名、それ以外の方は重症化せずに腎機能を守る事ができました。

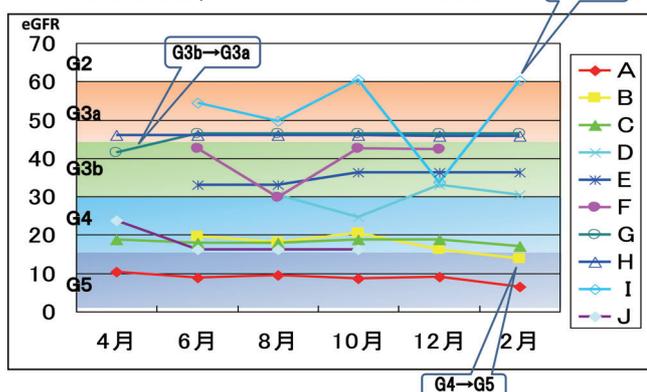
また、受講者で透析導入された方は3名です(1回受講者:2名・4回受講者:1名)。

受講希望の方は各診療科で主治医にお声かけ下さい!!

患者さん、そのご家族ともに興味のある方は是非ご参加ください。関心のあるテーマの回だけの参加も歓迎いたします。

みなさん、一緒に慢性腎臓病について楽しく学んでいきましょう!!

継続受講者(4回以上)のeGFRの推移



糖尿病教室

当院では2010年より糖尿病教室を実施しております。個別指導とは違い、糖尿病に関するさまざまなテーマでお話しさせていただきます。

講義後に、管理栄養士に質問等できる時間もありますので、一度参加されてみてはいかがでしょうか。当院を受診されている患者さんで、糖尿病の既往がある患者さん対象です。



日本糖尿病療養指導士の認定を受けて

栄養部 副科長 管理栄養士 矢野 美咲

この度、日本糖尿病療養指導士の資格を習得いたしました。

CDEJ（日本糖尿病療養指導士）とは、糖尿病治療にもっとも大切な自己管理（療養）を患者さんに指導する医療スタッフです。

高度でかつ幅広い専門知識をもち、患者さんの糖尿病セルフケアを支援します。

この資格は、一定の経験を有し試験に合格した看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士に与えられ、CDEJに認定されることは、糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートであることを意味します。

糖尿病患者の療養指導は糖尿病の治療そのものであるとする立場から、患者さんに対する療養指導業務は、わが国の医療法で定められたそれぞれの医療職の業務に則って行われます。

医療は日々進歩しますので、CDEJとして認定された後も引き続き実践と研鑽を重ねて最新の知識・技能を身につける必要があります。このため、CDEJの認定制度は5年毎の更新制となっています。

当院では、糖尿病教室を二ヶ月に一度実施し、個別での栄養指導も行っております。患者さんとの会話や交流を大切に、専門性を生かした療養指導を行っていきたく思います。



令和元年度 糖尿病教室予定

	日 程	テ ー マ
第1回	済 平成31年 4月23日(火)	炭水化物の上手な摂り方
第2回	済 令和元年 5月28日(火)	食事と血糖値の関係
第3回	済 令和元年 6月25日(火)	外食の選び方～実際に選んでみよう～
第4回	済 令和元年 7月23日(火)	口腔ケアについて
第5回	済 令和元年 8月27日(火)	・検査値について ・フットケアについて
第6回	済 令和元年 9月24日(火)	糖尿病と認知症
第7回	済 令和元年 10月29日(火)	糖尿病と塩分
第8回	済 令和元年 11月26日(火)	糖尿病と睡眠
第9回	令和元年 12月24日(火)	年末年始の過ごし方
第10回	令和2年 1月28日(火)	糖尿病と眼の疾患
第11回	令和2年 2月25日(火)	間食の摂り方・選び方
第12回	令和2年 3月24日(火)	糖尿病とコレステロール

日時 毎月第4火曜日 14:00～15:00

場所 ふたばホール

費用 保険一部負担金をお支払いいただきます (3割負担: 240円、1割負担: 80円)

個別指導

日時 要相談 (外来受診時に医師または看護師、クラークに声をかけてください)

場所 1F相談室

費用 保険一部負担金をお支払いいただきます

(初 回 3割負担: 780円、1割負担: 260円)

(二回目以降 3割負担: 600円、1割負担: 200円)



受講希望の方は各診療科で主治医にお声かけ下さい!!

昨年の糖尿病教室の様子



教室の様子



低カロリー食品などのサンプルも準備しています



主食の計量なども行います



患者さんとお話している様子

丹後中央病院からのお知らせ



濱田先生

くすぐる新聞の好評コラム 「くすぐる診療所」が 読者の皆さんのリクエストで 一冊の本になりました。

くすぐるカード会(与謝野町)が毎月発行する「くすぐる新聞」に医療コラムの寄稿を始めて7年。がんを早期発見で治す方法や感染症の正体、頭痛や耳鳴りの原因等をわかりやすく解説しています。

会員からのリクエストに応じて、このたび2017年までの連載をまとめた冊子「くすぐる診療所」が完成しました。以下の書店等で販売しておりますので、ぜひお求めください。

取り扱い店

- まるぜん書店 (野田川店、マイン店、網野店)
- 浪江書店 (宮津)
- 淀徳書店 (大宮)
- マルヨシ書店 (峰山)
- 丹後中央病院1階売店「いちよう」

著者について

濱田 暁彦 当院 消化器内科主任部長 兼 内視鏡室室長

資格等

日本内科学会認定 総合内科専門医
日本消化器病学会認定 消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定
消化器内視鏡専門医・指導医
日本ヘリコバクター学会 認定医

所属学会

日本膵臓学会 日本ヘリコバクター学会
日本胆道学会 日本腹部救急医学会
日本臨床細胞学会 日本時間生物学会
日本食道学会 日本臨床腸内微生物学会
日本肝臓学会 日本東洋医学会

編 集 後 記



本年は、平成より令和と改元され、様々な事が大きく変わり始める年となります。

そんな慌ただしい中、当院にも20余名の新入職員が入職しました。これからも病院の基本理念である「安心・信頼・良質の医療」を提供できるよう努めてまいります。

新入職員も含めこれからも暖かく見守っていただきますようよろしくお願ひ申し上げます。

前号発行より間隔が空いてしまい大変お待たせいたしました。

(秘書広報部 千賀雅俊)